

公開文化講座

日本文化の再発見

歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

＝平成26年5月～27年2月＝

「森と豊かな水、島国という環境が、平安時代以降に「わが国独自の文化」を育む暮らしの「和様、和風の魅力」を学びます・・・第2号

5月29日(第2回) 『日本建築史』 若井 敏明先生

「集落の成り立ちから、古代建築への変遷と『平城京』・・・宮殿と町づくり」の講義が始まりました。

若井先生初挑戦?の、パワーポイント「画像データーによる講義」を愉しく聴講しました。講義は、縄文・弥生時代の集落の特徴「竪穴式住居」からスタートし、「纏向遺跡と宮殿の起源」、「宮殿と神殿の変遷」、および「飛鳥・白鳳期の寺院建築」へと展開し、「平城京の都市計画」をビジュアルに、且つ、軽妙なトークも交えてアツという間に講義が終了しました。



パワーポイントと共に滑らかトークの若井先生



飛び入り参加の建築史の小林先生

6月5日(第3回) 『日本建築史』 若井 敏明先生 午後 現地探訪

『和様建築の幕開け』は、「平安京の町づくり・寝殿造り・浄土寺院建築と浄土庭園」で、畿内に止まらず奥州平泉の仏教文化にまで及び、建築様式と仏教の関わり合いを学びました。

午後は豊中同窓会の協力の下、吉岡、坂口両氏のボランティアガイドにより「原田しろあと館」見学会を実施しました。

当日、応仁の乱直前の細川家内乱で亡くなったとされる、原田城主の五輪塔を「日本民家博物館」にて見学した後、現地に移動。NHK大河ドラマ「黒田 官兵衛」に出てきた「織田方の有岡城攻め」拠点の一つ、原田城跡では堀と土塁の囲まれた城跡を見学。

荒木村重の反乱時の原田北城跡から、約4km西の有岡城を土塁上から確認?結果は・・・建物が建て込んでいて「あの辺り?」でした。

その後、「旧羽室氏住宅」内のミニ資料館で、北城と南城の関連を掲示された資料で学びました。旧羽室氏住宅は、曾根、岡町、豊中の住宅地開発が行われた昭和初期に造られた住友系企業の役員羽室氏の豪邸で現在は市の所有となり、国登録有形文化財となっています。

阪神大震災を潜り抜けた広い邸宅内を案内して頂き、昭和初期の数寄屋風を採り入れた住宅を見学しました。



原田城跡と土塁の立札



ボランティアガイドさんの説明で資料館見学

6月12日(第4回) 『食文化史』 猪熊 智雪先生

「地下に真実、地上にロマン」から食文化史が始まりました。
 「縄文文化と食」～縄文人の知恵～の講義です。調理器具・調理方法・調味料と塩の作り方・貝塚からわかるもの・食物の種類を特定する方法等々、多岐にわたり熱の入った講義に「エーそうだったの・・・」と、2千～2千5百年以上も遡り、当時の食文化の知識を新たにしました楽しい時間でした。



身振り、手振りも交えた講義の猪熊先生



縄文土器片と4千年前の杉の木製品

「縄文時代は母系社会」で争いはなし。稲作文化が定着した「弥生時代は父系社会」に入り集落間の争いが起こる。現代の世情と変わらないこと？を再認識。

6月26日(第5回) 『日本建築史』 小林 一彦先生

～竪穴住居・高床住居から日本人の住居の原型を探る～講義です。
 先生が描かれた日本民家集落博物館内の「秋山郷のデッサン」の表紙ではじまる手づくりのレジюмеにより講義を受けました。
 「民家史」の時代背景の講義から、建築の構造と民家を先生特技のデッサンにより、生活様式も併せて学ぶことができました。



小林先生自作の「秋山郷」民家



デッサンのレジюмеを片手に小林先生の講義

7月3日(第6回)『衣服文化史』酒野 晶子先生

～縄文時代から古墳時代・・・編布、貫頭衣から高松塚の時代～の講義です。

先生の永年の研究結果と共に、復元された「着るもの」・・・服装監修・着付け指導された「由紀さおりの卑弥呼」像をはじめ、研究成果を纏められた著書を主体に、各地で出土した機(はた)や布片から教材としてご自身で復元された織物を通じ、当時の衣服を学ぶことが出来ました。

衣服の素材・・・鹿、猪の皮革・大麻・からむし・藤・絹。

編み物、織物を作る道具・・・原始機・地機・高機等。

先生手書きのレジュメで解説いただき理解を深めました。

また、5世紀頃の地機が現在も活躍・・・伝統工芸の結城紬・・・していることに、先人の知恵に感嘆しきり。印象深い講義でした。



酒野先生が復元された織布



酒野先生が復元された貫頭衣でファッションショー

公開講座「日本文化の再発見」教務

公開文化講座

日本文化の再発見

歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

「森と豊かな水、島国という環境が、平安時代以降に「わが国独自の文化」を育む暮らしの「和様、和風の魅力」を学びます。

平成26年5月22日(木)、「和様、和風文化」を学ぶに相応しい自然に囲まれた環境の下、豊中・服部緑地公園内の「日本民家集落博物館」をセミナー会場に、船本理事長の開講挨拶により、「日本文化の再発見」公開講座がキックオフしました。

開講式後、「弥生文化博物館 卑弥呼の館」を監修された「日本民家集落博物館」井藤 徹館長の特別講演で講座の幕を開けました。



理事長の開講式挨拶



日本民家集落博物館 井藤館長講演

講演には、和食文化を担当される猪熊講師も特別参加され、弥生時代を主体とした集落、文化のお話を受講生の皆さんは熱心に聞き入り、あっという間に時間が経ち午前の講義が終了しました。



飛び入り参加の猪熊先生



オリエンテーション風景

講義の後、オリエンテーションに引続き、自己紹介…ミシン縫製(男性)・バンドマン・有機栽培野菜づくり・ヘルパー有資格者・老人会会長・少年野球監督・手品師等々、多士済々の仲間が集合、これからが楽しみな講座になること間違いなしと、心強い限りです。

午後は、同館の学芸員 小島氏の案内で民家集落…飛騨白川の合掌造り・摂津能勢の民家・日向椎葉の民家・信濃秋山の民家・大和十津川の民家・小豆島の農村歌舞伎舞台・南部の曲家等の重要文化財、有形文化財を見学、この民家内での「囲炉裏料理体験」実習授業に夢が膨らむ初日の講座でした。



民家集落の見学



日本民家集落博物館 井藤館長から、受講生全員に「大阪府立弥生文化博物館」、「大阪府立近つ飛鳥博物館」、「堺市博物館」の招待券をプレゼント頂きました。井藤館長ありがとうございました。

皆様のご支援、ご協力のおかげで順調にスタートが切れましたことと、厚くお礼申し上げます。

受講生の皆様の期待に応え、当講座で学ぶ楽しさを味わって頂ける様、運営に尽力して参ります。
引き続きご声援をお願い致します。

ONCC教務担当

公開文化講座

日本文化の再発見

歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

受講生募集：定員35人



平成26年5月 開講 全20回

「平成26年5月～平成27年2月」



主催：NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ

後援：大阪府教育委員会・豊中市・豊中市教育委員会

公益財団法人大阪府文化財センター 日本民家集落博物館

大阪府高齢者大学同窓会 豊中・茨木・高槻・吹田・箕面・摂津・豊能・枚方（申請中）

“日本文化”の再発見…歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

講座カリキュラム

平成26年度		“森と豊かな水、島国という環境が、「わが国独自の文化」を育み” 平安時代以降に開花した暮らし「和様、和風の魅力」を学びます			講義曜日 木曜日	
回	月	日	曜日	【住】 日本建築史	【食】 食文化史	【衣】 衣服文化史
				…和様建築文化	…和食(日本料理)文化	…「着物」(きるもの)文化
				☆若井講師、小林講師	猪熊講師	酒野講師
1		22	木	開講式…特別講演『弥生文化博物館 卑弥呼の館』日本民家集落博物館 館長：井藤 徹		
	5	時代		(衣)・(食)・(住) 原始・古代…外来の文化		
2		29	木	☆集落の成り立ちから、古代建築への変遷と「平城京」…宮殿と町づくり		
		時代		(住) 平安時代…和様文化の黎明期		
4		5	木	和様建築の幕開け…寝殿造・平安京の町づくり、浄土寺院建築と浄土庭園		
5		12	木	縄文文化と食 …縄文人の知恵		
6		26	木	堅穴住居・高床住居から日本人の住居の原型を探る		
7		3	木	縄文時代から古墳時代…網布、貫頭衣から高松塚の時代		
7		10	木	稲作文化と茶の文化…稲のきた道、米の食べ方		
8				夏休み		
		時代		(住)中世…和様文化の深化期	(衣)(食)平安時代…和風文化の黎明期	日本民家集落博物館内
8		18	木	☆武士の館、禅宗様と枯山水庭園、門前町・寺内町発展と農村の形成		
9		25	木	奈良時代から平安時代の衣服…正倉院の衣服・十二単		
10		2	木	和様住宅の原型…書院造と茶室		
		時代		(衣)(食)中世…和風文化の深化期		
11		9	木	日本料理の文化とその特色…茶懐石、会席料理		
12		23	木	フィールドワーク(終日)…露地・禅の庭・植治の庭		
13		6	木	中世から近世《麻・絹・木綿》 …小袖からきものへ		
		20	木	離宮建築、城郭と町づくり		
		時代		(衣)・(食)・(住) 近世…和様・和風文化の成熟期		
16		27	木	衣服を作る・文様をつける…織機と染織技術。 …絞り・辻が花・友禅・緋など		
17		4	木	日本の民家と間取りとデザインを語る		
18		11	木	平安時代から江戸時代の食文化…万葉集に見る食材、郷土の雑煮文化		
19		22	木	町家の成立…間取りから暮らしの変遷を辿る		
20		29	木	わが国古来の食から現代の健康的な食を考える…おいしいかるしおレシピ		
	2	5	木	修了式…特別講演『茅葺民家入門』日本民家集落博物館 学芸企画課長：山城 統		

備考
日付の色分けは表題の色分けを表しています。
衣…□緑
食…□珠
住…□青

午後は、受講される方の自主授業です

【 予定 】

- 日本民家集落博物館内
1. 民家集落ガイド
 2. 民家集落餅つき体験
 3. 囲炉裏料理体験
- 見学会
1. 国立民族博物館
 2. 桜井谷窯跡
 3. 豊中市内 南郷目代今西氏邸等
- 特別有料講座
1. 染司よしおか:
「吉岡幸男先生の工房」見学:酒井講師による
 2. 「人形淨瑠璃」国立文楽劇場

注:フィールドワーク、及び午後の活動は実費負担です。

注:カリキュラムは講師のご都合により変更になる場合があります。

「日本文化の再発見」講座講師陣のメッセージ

若井敏明 講師のメッセージ『日本建築史』

日本の伝統文化の再評価が、国の内外から注目を集めています。その中で、暮らしの『和様・和風の伝統文化』の、黎明期から深化期への変遷から、日本建築を生み出した文化や時代背景を、建築そのものの観賞以外に、その成り立ちの本質に迫ります。

仏教大学、関西大学非常勤講師

著書:『邪馬台国の滅亡』(吉川弘文館)他執筆

猪熊智雪 講師のメッセージ『食文化史』

現代、わたし達は和の食のみならず、世界の様々な国の食を味わうことが出来ますが、自然によりそった生活をし、日本文化の基盤を築いた縄文人の食・和のこころを鑑み、食の歴史を辿ってみましょう。

元大阪府立吹田高等学校 教諭

食文化研究家

福井県若狭の「鳥浜縄文遺跡」研究グループ会所属
4千年前の杉を利用したペンダントの作製に参画

小林一彦 講師のメッセージ『日本建築史』

竪穴住居が、石場建ての民家となり、日本らしい建築が平安時代頃から始まりました。

発展して書院造り・数寄屋造り等、和様の木の文化の住まいが出来上がりました。

民家、町家の形態と、間取りから日本の住まいの文化を「民家・町家の豊富なスケッチ」をご紹介します。

小林一彦建築設計事務所代表

主な作品:第一びわこ学園、立命館大学西園寺記念館
同志社大学看山ハウス等を設計

酒野晶子 講師のメッセージ『衣服文化史』

原始・古代から人びとは、いろいろな着るものを作って着用しました。きるものの「和風」については、意見が分かれるところも有りますが、いろいろな個性的な形と文様から、各時代の美意識に迫ります。

日本の伝統色の再現に取り組み、「源氏物語の色五十四帖を再現」された『吉岡幸雄先生の工房』を皆さんと一緒に訪ねたいと思っています。

東大阪市郷土博物館、東大阪市民美術センター
学芸員、天理大学文学部非常勤講師

著書:『弥生の布を織る』(東京大学出版社)他執筆

講座の特徴

近年、ユネスコ(世界遺産、世界無形文化遺産)に登録された「平泉・富士山・和食」等から、日本は世界中から注目され、2013年度の訪日外国人数は1千万人を初めて突破しました。

この様な環境のもと、私達も服部緑地公園内に重要文化財が展示されている『日本民家集落博物館 セミナーハウスと古民家』をメイン教室に、日本の歴史から読み取る『和様、和風の伝統文化』、暮らし(衣食住)を探究し、発信することが出来ればと思っています。

各分野スペシャリスト、4人の講師の指導のもと、座学と現地学習(フィールドワーク)を組合せ、『和様・和風の伝統文化』の原点に迫ります。

午後は仲間と共に、『日本民家集落博物館 古民家屋内の囲炉裏』を囲んだ料理体験や見学会等をご案内します。(自由参加)

大阪府教育委員会・豊中市初め、各方面の団体後援のもと、運営して参ります。

【会 場】日本民家集落博物館(服部緑地公園内)

セミナーハウス及び古民家 他

【期 間】平成 26 年 5 月～平成 27 年 2 月(全 20 回)

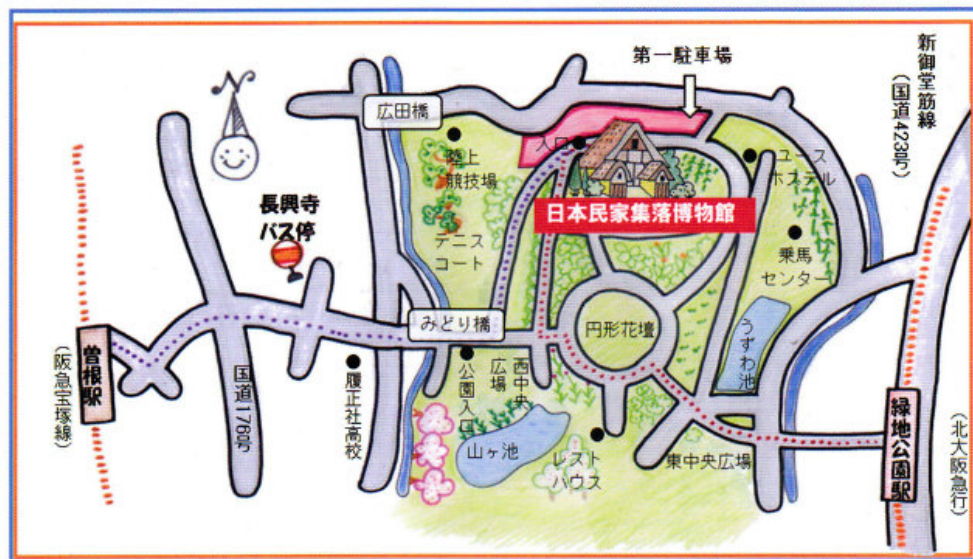
【受講料】 26,000 円(全 20 回分)

別途費用:日本民家博物館年間ミュージアムカード代 2,000 円

【定 員】 35 人(定員になり次第締め切ります)

服部緑地公園内の主な講座室となります「日本民家集落博物館」
セミナーハウスの周辺地図

上記以外に豊中市立ルシオーレホールを使用する場合がありますが、
その都度ご案内いたします。



＝ お問い合わせ先 ＝

NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ
〒567-0817 茨木市別院町 4-10
TEL:072-646-9422 FAX:072-646-9423
E-mail: info@oncc.jp URL: http://oncc.jp

